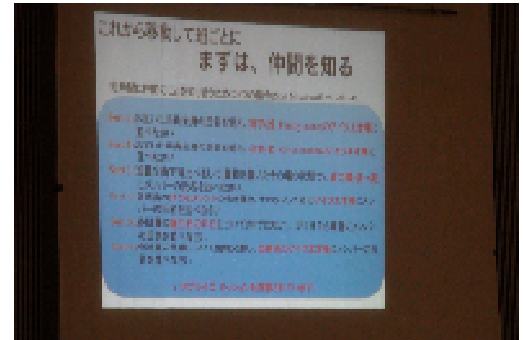


平成 23 年度 新入生合宿研修報告書

去る、平成 23 年 5 月 6 日(金)から 1 泊 2 日の日程で、国立立山青少年自然の家、及び国立公園立山(室堂平、室堂山)周辺を会場として「平成 23 年度 新入生合宿研修」が実施された。期間中は天候にも恵まれ、特に 2 日目の「野外研修」では、未だ多くの積雪に包まれたままの「立山連峰」や 17m を超える「雪の大谷」が青空に映え、富山の大自然を活かしたダイナミックな研修となった。尚、本研修は、同キャンパス内の全学部が集う特色ある研修である。

1 日目、早朝に集合した学生達は、普段の授業より早い集合時間とあって、やや眠たげな表情も多かったが、大型観光バス 7 台に分乗し、一路、立山町にある国立立山青少年自然の家へ。

到着後、開会式を行い、簡単なゲームを通して交流の機会とする「アイスブレイキング」を実施した。入学後ほぼ 1 ヶ月が経過したとはいえ、まだまだ学生間の交流が少なく、「他学科生との交流が持てた」「友達が増えた」「子ども染みていると思っていたが、楽しめた」などの声が聞かれたことから、合宿研修の始まりとして好調な滑り出しとなった。



午後からの「救急救命法講習」では、午前中に実施した「アイスブレイキング」が効果的に作用し、和気藹々とした雰囲気の中、救急部及び富山市・立山町消防署員からの指導を受け、講習用の器具を用いた実技にあたっているようであった。ここでも「初めて受講したがためになった」「丁寧に指導して頂き、すぐ実技に移せた」「以前も受講したが再確認の良い機会となった」等の意見が聞かれた。また一方では「実技の順番がなかなか回ってこなかった」「予定されていた止血法等が実施されなかった」等の意見も一部聞かれたことから、この点については、翌年度実施に向けての改良点としたい。

夕食・入浴後には学科別に班を構成し、各班に教員を交えたうえで、自らの将来についてや自分が今後何をすべきか等、活発な意見交換をおこなった。特に、現段階では学生と教員という立場で、授業でしか接する機会のない 1 年生達にとって、教員と懇談できる機会は学生達には実りの多い研修となった様で「先生ともお話できたので良かった」「将来像が少しだけどつかめた」「皆の意識の高さがよくわかった」「看護を学ぶことに対する意識が高まった」等の意見が聞かれ、杉谷キャンパスに学ぶ学生としての意識を高めることができたようであった。



2 日目、本研修の目玉「野外研修」の会場、標高 2,400m 「室堂平」に移動した学生達は、頭上から降り注ぐ太陽や雪からの照り返しに目を細めながらも「室堂山(標高 2,675m)登山」「室堂平散策」の 2 隊に別れ、それぞれに野外研修を満喫した。その後、室堂山中腹に集合した学生達は、滑走距離数十メートルに及ぶ季節外れのソリ遊びを楽しんだ。「楽しかった」「疲れたが、達成感があった」等、それぞれにこの大自然を堪能していたようであった。「もう少しソリ遊びをしたい」という意見もあったが、午後から天候の急変が危惧されたため、正午過ぎで活動を終了し、大学への帰路に着いた。



全日程を通して「他学科生との交流を図る良い機会であった」との意見が多く、杉谷キャンパスで学ぶもの同士が結束力や互いの意識を高め合い、それぞれが自らの夢に向かって歩み出すきっかけの一端を担う、有意義な研修となっているようである。